

WE
LOVE

October 2023

地域医療支援学レター

vol.
45



CONTENTS

● 活動報告

● セミナー報告

リレートーク第45回

● 地域包括ケアシステムを
支える病院を目指して

出雲医療生活協同組合 出雲市民病院
院長 小松 泰介 先生

活動報告

令和5年7月31日(月)18:00～19:00

令和5年度第1回えんネット交流会

【場 所】共通カンファレンスⅠ
【参加者】医師10名 学生4名 その他2名

令和5年度第1回「えんネット交流会」を、16名で行った。スタートから約1時間、自己紹介ごとに質問・雑談を交えながら楽しく過ごした。それぞれにおかれた環境が違う中で、悩みや目標も異なり、その時々に応じて、皆頑張っていることが伝わってきた。

終了後アンケートでは「とても楽しかった」「今後の参考になった」「たくさんの方の話を聞けて良かった」と回答があった。

学生にとっては将来をより具体的にイメージできる機会となり、医師にとっては大学病院でありながら診療科・講座を越えて、普段は交流がない方と人脈を作る機会となった。

今後は人数に応じてグループワーク等を企画し、より深い交流が出来れば良いと考えている。
是非ご参加ください。



令和5年8月21日(月)～24日(木)

令和5年度地域医療体験実習Ⅰ
(夏季地域医療実習)【報告会】令和5年8月25日(金)14:00～16:00(Web開催)
【参加者】20名

大学：島根大学11名、鳥取大学3名、自治医科大学4名、筑波大学1名、長崎大学1名
学年：1年6名 2年2名 3年5名 4年5名 5年2名

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、7圏域すべての保健所と病院関係機関の協力を得て地域医療体験実習Ⅰ(夏季地域医療実習)を行った。

全国5つの大学から医学生20名が参加した。猛暑にもかかわらず積極的に実習を行い、質問をする姿が印象的であった。また、学生同士の交流についても活発に行われ、新たな交友関係を構築することが出来たものと思われる。

最終日の報告会をオンラインで開催した。4グループに分かれ「一番印象に残った体験」「地域医療の良いところ・課題」「地域医療の課題の解決策」の3テーマについて学びを共有し、代表者が発表を行った。有意義な実りある実習であったことが、報告会を通して窺えた。

地域医療の社会的需要や重要性がますます高くなっていく中、この実習を通して更なるモチベーション向上に繋げてもらいたい。



令和5年8月28日(月)9:10～15:20

松江生協病院・松江市立病院・
松江赤十字病院見学

【参加者】島根大学学生7名 鳥取大学学生5名 島根大学教員4名

今年度入学の島根県医学生地域医療奨学金貸与学生を対象に希望者を募り、松江生協・松江市立・松江赤十字病院を巡るバスツアーを企画した。昨年と異なる点は、将来共に島根県の医療を担う鳥取大学の島根県枠の学生も加わったことである。

松江生協病院では指導医の鈴木先生に、キャリア形成を考える上で大事にされていることや医師として患者さんに向き合う視点についてメッセージを頂いた。

松江市立病院では、研修医の井田先生に「医学生のうちに」というテーマでお話し頂いた。学生達からは「これから大学生活をどう過ごせば良いのか分かった。初期臨床研修の候補の一つになった」と感想が寄せられた。

松江赤十字病院では、OP室・ICU・救急外来・救命センター・外来部門・放射線科・ヘリポートを見学させて頂いた。初めての見学場所に感嘆の声が漏れ聞かれた。



令和5年8月11日(金)・12日(土)

オキフェス2023に参加して

こんにちは、島根大学医学部5年の松島宙良です。8月11・12日に隠岐の島町で開催された『オキフェス2023』に参加してきました。

初日は隠岐病院の見学からスタートし、離島の病院ならではの特徴を知ることができました。次にグループに分かれ、隠岐の良い点や生きがいについて、住民の方にインタビューをしました。これらの行動がプライマリ・リサーチに繋がるのだと体感することができました。

2日目は、海上でのレクチャー、ストリング法による釣り針の抜去、テトラポットでの海の生き物探しなどを行いました。どれも実際に五感で体験することができ、貴重な経験になったと考えています。

2日間、様々な企画が盛りだくさんでした。また、ゲストの先生方や全国から集まった研修医の先生や医学生の経験を濃く聞ける機会となり、最高の時間となりました。



令和5年8月28日(月)13:30～13:50

島根県庁表敬訪問

【場 所】島根県本庁6階講堂
【参加者】島根大学学生7名 鳥取大学学生5名 島根大学教員4名

令和5年度入学の島根県医学生地域医療奨学金貸与学生12名が島根県庁を訪問した。

目的は、「学生が地域医療への決意表明を行い、激励を受けることで島根県の医療への関心をより一層高める」ことである。

島根大学特別選抜枠で、地域枠・緊急医師確保枠・県内定着枠のそれぞれ代表と鳥取大学の島根県枠の代表が、将来島根の医療を担う人材のひとりとして、医師を志した切っ掛けや、入学してからの日近況、将来の夢など決意を述べた。

安食健康福祉部長からは、若き有志の決意を称え、激励の言葉が贈られた。学生達からは、「私たちは期待されていることがわかった」「仲間の『島根に貢献したい』という強い意志に、自分も頑張ろうと思った」「訪問をきっかけに、将来島根県のために、働くんだと決意を新たにしたい」と感想が寄せられた。



令和5年8月29日(火)～9月29日(金)

研究室配属が始まりました

【配属学生】医学科3年生6名

研究室配属は各々が興味のある講座で1か月実習を通して勉強する。当講座には地域医療に興味をもつ6名が配属された。地域医療は病気の予防のための地域づくりと、病気が発症して病院前救急から在宅等、社会復帰に至る迄に関わる多職種連携が重要である。

前半では大学の地域医療連携センターから、事務職、看護師長、MSWに退院支援調整等について事例を交えてお話し頂く。その後、訪問診療や訪問看護に同行させて頂き、連携の実感を学ぶ。また、圏域の医療を知るために、保健所や病院前救急の理解のため消防署での実習を予定している。

後半は、大学の垣根を超え鳥取大学で2泊3日の救急・感染症のフィールドワークを行う。これは今回初めての取り組みで、学生たちの新鮮な学びが期待される。

地域医療の醍醐味を体験し、1か月にわたる学びをこれからの学習に紡いでもらいたい。

地域医療を守り育てる
住民活動2023 in島根

令和5年7月1日(土)13:30～16:45

【テーマ】コロナ禍での住民活動の変化と未来に向けて
～コロナ禍で困ったこと工夫したこと～【場 所】出雲ロイヤルホテル
【参加者】対面42名 オンライン31名

令和2年以降コロナ禍で開催が延期されていた『地域医療を守り育てる住民活動の会』を、4年振りに当講座の主催で開催した。

この会は、平成23年度から平成27年度までの5年間は島根県主導で行われ、平成28年度より、二次医療圏で活動に取り組む住民団体を主体に持ち回りで開催されていた。しかし、コロナ禍においては住民活動そのものも控えざるを得ず、令和2年以降開催についても見送られていた。そこで、今年度5月新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」になるのを受けて、一旦島根大学が引き取ることで、7月1日にハイブリッド方式で行った。

テーマを上記のように設定し、3部構成で1部は基調講演とし、最初に島根県健康福祉部医療統括監の谷口栄作先生に「島根の地域医療と住民協働～地域医療と住民活動～」と題してお話し頂いた。続いて自治医科大学地域医療学センター・総合診療部門 センター長・教授の松村正巳先生に「地域医療を支えるもの2023～コロナ禍を経て～」と題し、地域医療における課題、課題解決に向けて、地域医療を担うことのできる医師の育成、そして将来展望についてお話し頂いた。

2部は活動報告として、「雲南市立病院ボランティアの会(てごっ人)」の石川勝氏、「公立邑智病院を支援する会」の南原博文氏、「益田の医療を守る市民の会」の尾庭昌喜氏にテーマに沿ってお話を頂いた。

3部は基調講演・住民団体の報告を受けてグループに分かれ、グループディスカッションを行った。久し振りの再会者も多く話は尽きないようであった。

アンケートでは「我ごととし、市民の立場でできることからやろう!とされていることが凄かった」「住民組織は形骸化が進み、今後どのように進めるべきか岐路に立っている。先進組織の活動が参考になった」等多くの感想意見が寄せられた。



Career Seminar



全身管理ができる医師を目指して

【実施日】令和5年6月21日(水)12:15～12:45

【講 師】島根大学医学部麻酔科学講座
教授 二階 哲朗先生

【参加者】25名

概 要

先生は泌尿器科医としてスタートされたが、2年目に派遣された庄原赤十字病院での忘れられない症例や出会いを切っ掛けに、「全身管理のできる医師になりたい」という思いが募り、5年目に麻酔科医に転向された。

全身管理を行うことで良かった点を「①多くの症例に出会い、臨床経験ができた②重症度が高くても、基本を実施することで医療が成り立つ③全身管理の深みが知れた→向上心を維持④医療と一緒にできるメンバーと出会えた」を挙げられた。

最後にメッセージとして、「①一人の患者さんを大事に②楽しみながら、目標をもって臨床にチャレンジ③一期一会を大事に」を贈られた。

先生のお話で感服したのは、同僚や多職種に対するリスペクトである。「一期一会」は、人との繋がりを大事に育て関係の幅を広げてくれたからこそ贈られるメッセージであるように感じた。

セミナー報告
SEMINAR REPORT

地域医療セミナー



非がん疾患のエンドオブライフケア

【実施日】令和5年7月12日(水)18:00～19:00

【講 師】東京ふれあい医療生活協同組合
研修・研究センター長 平原 佐斗司先生

【参加者】17名

概 要

先生は、在宅医療と非がん疾患の緩和ケアをライフワークにされている。非がん患者のエンドオブライフケアに①なぜ取り組んだのか②その歴史③その課題についてお話し頂いた。

切っ掛けは、在宅医療のバイオニア達との交流や、アメリカでの緩和ケアの実際に触れられた事にあり、多くの研究や書籍の執筆をされている。緩和ケアの歴史は、緩和ケアを受ける権利の宣言・決議・条約等を交えて詳しくお話し頂いた。

課題は、①非がん疾患患者への医薬品の提供と緩和ケアの提供体制の整備、②緩和ケアアプローチを浸透させる教育・研修、③緩和ケア総合医の育成、④国民と政策立案者等に理解を深めるアプローチ、⑤法整備を挙げられた。

先生が重ねて話された「苦しみの中に放置するのは人権の侵害である。緩和ケアの提供は国の義務であり、医療者の倫理的責務である」というメッセージは、これから医療を担う学生たちの胸にも深く刻まれたことであろう。

進化する放射線治療
～和気藹々 新治療様でがんの治療中～

【実施日】令和5年5月9日(火)12:15～12:45

【講 師】島根大学医学部 放射線医学講座放射線治療科
助教 圓山 陽子先生

【参加者】22名

概 要

先生は学生時代から薬をメインとした治療に抵抗を感じておられたことから放射線科を選択された。放射線治療医は患者さんに適した放射線治療を選択し、治療内容を患者さんに説明、放射線治療の当て方を決めるのが仕事である。患者さんとかかわる時間も長く、放射線治療を継続・完遂できるように患者さんを励まししながら日々診療を行ってられる。放射線治療体制は専門医のみではなく、医学物理士・放射線技師等、多職種との協力が重要である。

先生は初期研修・後期研修・放射線治療専門医取得後に出産を経験され、育児をしながらもその時々でできる働き方を継続されてきた。その中で患者さんとの信頼関係も築くことができ、嬉しい経験もあったと話された。迷いながらも焦らず自分の道を進んでほしいと親しみやすい笑顔いっぱいでお話しされた。



出雲医療生活協同組合
出雲市民病院

院長
小松 泰介 先生

当院は出雲市の中心部に位置する病床数180床の小規模病院です。

地域密着型病院として、いわゆるcommon diseaseへの外来・入院対応を中心に、保健予防活動や健康づくりの活動に至るまで、地域の健康問題に幅広く対応してきました。

現在、入院機能としては全病床の3分の2に当たる120床を地域包括ケア病棟として運用しています。医療機能としては回復期医療に該当しますが、急性期治療後の在宅復帰支援機能(post-acute)のみならず、近年では特に在宅・施設で療養されている患者さんの医療支援や高齢者救急への対応にも注力しています。

今、急速な高齢化の進行とともにmultimorbidity(複数の慢性疾患・健康問題を有する)患者が増加しており、また身体的な問題だけではなく、多様な家族・社会的背景も考慮した対応が必須となっています。当院では、家庭医・総合診療医が中心と

なり、各科専門医やコメディカルスタッフと連携して、患者さん一人一人が住み慣れた地域で、その人らしい人生を送れるよう支援してゆく中で、地域包括ケアシステムの要としての役割を担ってゆきたいと考えています。医学生・研修医の皆さんにも、急性期病院とはまた一味違う医療現場の有り様を経験していただければと思います。



出雲医療生活協同組合 出雲市民病院

〒693-0021 島根県出雲市塩冶町1536-1
TEL(0853)-21-2722 FAX(0853)-21-8101

認知症サポーター養成講座を開催して

地域医療研究会所属 医学科3年 篠田 航平さん

6月22日(木)19時30分から21時、「認知症サポーター養成講座」を地域医療支援学講座のご協力の下、みらい棟4階ギャラシーにおいて開催しました。

地域医療研究会はその名の通り地域医療に関心のある学生で構成されています。以前より重要な地域課題である認知症についてもっと学びを深めたいという考えがありました。

本講座では「セカンド・サロンの黒松慶樹先生を講師にお迎えし、認知症についての基本的な説明から、認知症の患者さんに対する接し方など多岐に渡りお話をさせて頂きました。私は、「介護者や家族とだけ話し、患者さん本人を無視するような医師にはならないで下さい」という先生のお言葉が心に残っています。患者さんの尊厳を傷つけない対応が出来る医療者になりたいと思いました。

修了者は、学生12名、先生方2名の計14名です。お世話になりました全ての皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。



交流会が開催されました



大田市出身医師、医学生と
大田市・大田市立病院との交流会

令和5年8月9日(水)
出席者19名(学生6名)



浜田の医学生・医師交流会

令和5年8月11日(金)
出席者19名(学生5名)



今後の予定

Career Seminar

令和5年10月31日(火)12:15~12:45

講師:林田 健志 先生
島根大学医学部形成外科 准教授

令和5年11月29日(水)12:15~12:45

講師:神田 武志 先生
島根大学医学部内科講座 腎臓内科 教授

令和5年12月予定

講師:高橋 佑典 先生
島根大学医学部内科学講座 消化器内科 医科医員

地域医療セミナー

令和5年10月13日(金)18:00~19:00

講師:岡田 唯男 先生
亀田ファミリークリニック館山 院長

令和5年12月18日(月)18:00~19:00

講師:齊藤 稔哲 先生
気仙沼市立本吉病院 院長

令和5年度第3回しまね総合診療の集い

(令和5年度総合診療専門医ブラッシュアップセミナー)

令和5年10月8日(日)13:30~17:30

講師:前野 哲博 先生
筑波大学医学医療系地域医療教育学 教授

多地域共創型医学教育シンポジウム inしまね

令和5年11月17日(金)13:30~17:00



レターをお読みいただき有難うございます。

レターのキーカラーは、「紅掛空色(べにかけそらいろ)」です。夏から秋の日の長い時期にみられる夕方の茜色と夜の帳の色が混ざった紫色です。夏の強い日差しから秋の訪れを感じさせる色合いです。

季節の移ろいとともに、外気の冷たさを肌に感じるようになりました。新型コロナウイルス・季節性インフルエンザの同時流行も懸念されています。どうぞご自愛ください。

